



宮崎友希さん
●瑞穂市在住
保育体験7回目
千颯ちゃん 3歳
柳颯ちゃん 2歳

中学時代、受験の合間に私も保育を体験しました

お兄さんお姉さんと遊ぶことで子ども笑顔に。皆の息抜き時間になり、さまざまな年代の人と関わり社会性、多様な価値観も学べます。



木俣真梨奈さん
●本巣市在住
保育体験4回目
結琳ちゃん 2歳
光織ちゃん 0歳

泣いていた娘が楽しみに通うまでに成長

絵本の読み聞かせやままごとにも全力で向き合う中学生の姿に心から感謝しています。親にとってもリフレッシュできる時間となりました。



保護者と中学生それぞれの保育体験インタビュー!

まちづくりのキーワードは「子育て」でした!



梶川結妃さん
●穂積北中学校
お世話した子
1歳0ヶ月

保育士になりたい夢が強くなった

子どもたちの個性の豊かさを実感。学校生活では感じられない思いや考えが深まり、新鮮な体験となりました。子どもに寄り添い声をかける体験を通して、将来保育士になりたいという夢もさらに強くなりました。



武藤瑞希さん
●瑞穂北中学校
お世話した子
10ヶ月

小さな仕草がとてもかわかった

10ヶ月の子を抱っこし緊張しましたが、子どもは大好きです。握を握む姿や揺らすと笑顔になる様子が心に残り、元気をもらえました。次は絵本を読んであげたいと思いました。将来周囲の人を笑顔にできる人になりたいです。



近藤楓さん
●穂積北中学校
お世話した子
2歳9ヶ月

泣いていた子が笑顔に変わった瞬間

小さい子と過ごす経験がなく、泣いて外に出ようとする子を見て大変さを感じましたが、一緒に遊ぶ時間は楽しくて、自分も地域に育てられたんだと感じました。将来は周りから頼られる大人になりたいです。



巻頭特集

20年続く、NPO法人キッズスクエア瑞穂の「乳幼児保育体験授業」

命のバトンをつなぎ、地域一丸の子育てを!!

瑞穂市内の3つの中学校が、家庭科の授業内で取り組む、乳幼児の保育体験授業。今年20年を迎える同授業は、なんと「私、中学生の時、保育体験しました!」という親たちが出てくるほど長寿授業です。県内初で最長となる取り組みを考案した、仕掛け人の優しい思いを聞きました。

瑞穂市立中学校で実施 命のバトンをつなぐ授業

「子育てに慣れていない中学3年生が乳幼児と1対1になり、汗だくで面倒を見てくれるんです。でも授業が終わる頃には、『オレにすごくなつてくれたんだよ』『私のところの子だつて!』など、自慢げな顔を見るのができるんですよ!」

満面の笑みで、中学生による保育体験授業のエピソードを語ってくれたのは、NPO法人キッズスクエア瑞穂にて理事長を務める、梶浦良子さん。この授業を発案し、瑞穂市内に広めた第一人者です。授業をスタートしたのは、今から約20年前の2003年。このときの幕開けを、梶浦さんはこう振り返りました。

「家庭科教師を子育てのために退職した私は、親子で舞台を楽しむ本巣南子ども劇場の活動をしていました。2002年に法人化して、キッズスクエア瑞穂として新たに子育て支援の活動を始めた頃に、『赤ちゃんに一度もさわったことがない!』という妊婦さんに出会ったんです。昔は兄弟の面倒を見るのが当たり前でしたから、こんな地方都市でもそんな時代になったのか!と驚きましたね。問題意識を持った私は、10代の子どもたちが乳幼児に触れる機会を、意図的に創り出そうと思いました」

2003年と翌年の2年間、団体主催で夏休みに中学生の子育てボランティアとして一般募集して、託児を体験する機会を設けました。しかし、集まった中高生は、『乳幼児が好き』

という女子生徒に偏ってしまい、本来の狙いである『幅広い子どもたちの体験機会』にはつながりませんでした。これにより考案されたのが、すべての子どもたちを対象として保育体験ができる中学校での「授業」。

まず、梶浦さんは自身の子が通う中学校の校長先生に掛け合って理解を得、家庭科の授業で1回だけではなく、複数回の保育体験がクラスごとにできるように盤石の体制を整えていきました。

当初は、中学生に1対1で乳幼児を任せる自信がなく、乳幼児ひとりに対して2人の中学生を配置しました。しかし、どちらか一方に慣れてしまったり、2人が遠慮し合つて本領を発揮できないなどのデメリットがありました。そして、何よりも、「一生懸命に取り組む中学生の姿を見て、1対1で大丈夫だ」という確信がもてたことが、数十年前にわたる「1対1での保育体験」の礎となったのです。

託児されていた子が面倒を見る側に

親になる前に乳幼児に触れる、同授業。授業のうちにアンケートを取ってみると、「幼児と一緒にいると楽しい」といった回答は授業前より増え、「幼児の相手をするのは面倒だ」と

う循環が始まったのです。

幸せの好循環が生まれつつある瑞穂市。発起人である梶浦さんとスタッフの皆さんが「丸」となつて、年間20回以上の体験授業を安全で充実したものにできるよう万全の体制を整えています。

最後に、地域への感謝と、次世代の若者へのエールを送ってくれました。「協力してくださる親御さんたちには、今後ぜひ中学生を信じて託して欲しいです。子育てはひとりでは抱え込むのではなく、周囲を頼ることが大切です。そして、いつもご協力いただける学校関係・PTAの皆様には、奮闘する中学生と共に見守っていただきたいと願っています。そして、地域の若者たちには、これから男女の垣根なく、子育てに関わって欲しいですね」

彼女が夢見るのは、子育ての輪が地域社会に浸透する、温かな未来。子育てをひとつの「まちづくり」としてとらえ、ぬくもりあふれる地域をつくりたいですね。

Information NPO法人キッズスクエア瑞穂

瑞穂市馬場春町1-49
☎058-326-2236
✉kids.sq@dream.com

Event



定期的にさまざまな取り組みを実施。詳しくは公式ウェブサイト。